2021/4/29-3

(うとQ世話し Which will you take?)

「やったあ、オリンピックの開催地になったあ！！」

と大喜びしたのが、数年前。

「日々努力してきたオリンピック候補選手が可哀想。なんとか開催したいものだ」

といていたのが1年前。

「なんで、そうまでして、オリンピックをやらなくちゃならないんだ？」

というのが今。

別にそうコロコロ変わったからと言って、誰かを責めたり嫌みを言ったりするつもりは毛頭ありません。

ここで申し上げたいのは、時や世の流れというものは、変転極まりないという事以上に、1年前の過程を一旦中抜きにして、数年前と現在の対比から

「最高だと思っていたときに、実は、何を隠そう、地獄の道への一里塚だった」

という可能性もあるということです。

ですが、反対にまた

「これ以上の地獄は無いと思っている今が、実は未来から見ると極楽への道の一里塚」

という事も、可能性としては、ない訳ではないという事です。

無論、今が地獄で未来も地獄という可能性は、確率としては50%ありますが、極楽という可能性も50%残っているわけです。

さて、このお話を聞いて、前段の部分のみが印象に残れば「世の運びというものは、人知では実に計り知ることの出来ないものだ」と「無常諦観」をきめこむでしょうし、後段の話の方が印象に残れば

「諦めるのは未だ早い。この先チャンスがない訳でもなさそうだ」

という「無常(固定された「常」などありはしないのだから、逆に)楽観」の気持ちになり得る事もあります。

さて、皆様方としては、どちらのお立場でしょう？

或いは、どちらをお取りになりますでしょうか？

オリンピックでの話ではありませんが、自分の現下の立場状況からすれ、おっぼり出したいのも山々なのですが、自分の好みとしては、後者に傾いております。